

平成24年度アイランドキャンパス報告書

沖永良部島、日本人の若者と中国人観光客への魅力発掘事業



鹿児島県立短期大学
鹿児島ピカリン☆プロジェクト

はじめに：事業の実施主体とその活動目的について

本事業の実施主体は、鹿児島県立短期大学の中国人留学生、日本人学生、教員によって構成されている「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」である¹。「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」は2011年2月から「日中両言語による鹿児島の観光情報をブログにて発信する事業」を開始し、鹿児島の観光情報について日本語と中国語を用いてブログにて発信している²。

鹿児島県立短期大学の学生が

PI 「ピ」ックアップした

KA 「鹿」児島のいいところを

R 「留」学生と

I 「一」緒に

N 「な」って紹介する

☆プロジェクト



鹿児島ピカリン☆プロジェクト

資料1 鹿児島ピカリン☆プロジェクトの由来

ブログのタイトルは、「中国留学生眼中的鹿児島（中国人留学生が紹介する鹿児島）」である。鹿児島県立短期大学の学生と教員がピックアップした観光名所を、実際に中国人留学生とともに訪問し、中国人留学生が感じたことを中国語と日本語で紹介している。

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」では、中国人留学生に積極的で、主体的な役割を担ってもらっている。そうすることで、日本人では気づかない観光地のアピールポイントや見逃していた魅力、さらには外国人でしか気づかないマイナスポイントや改善点を見つけ出すことができると考えているからである。そして、中国語だけでなく、日本語も併記することによって、中国人の観光客、旅行者、マスコミなどに対して情報発信すると同時に、日本人も情報を共有することができ、地元の魅力を再発見していくことが可能になる。

「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」で鹿児島の観光情報を日中両言語のブログで発信することにより、以下の効果が期待される。

¹ 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の活動報告書（中間報告書）を平成24年3月に発行している。この事業については、<http://www.k-kentan.ac.jp/area/pikarinreport.pdf> を参照のこと。

² 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」が運営しているブログについては、<http://kagochina3.sblo.jp> を参照のこと。

①観光情報の量と質が変化する。情報量が増え、パソコンの検索サイトで情報がヒットしやすくなる。さらに、日本語や日本文化に深い関心を持つ長期滞在の留学生が、従来注目されることの少なかった情報や、四季折々に変化する情報を取り上げることで、情報の質的な変化が生じる。

②ブログを通して、将来的に日本留学を希望する学生に対してより上質な情報を提供できる。

③海外のマスコミが取材する際に、検索する情報が増加し、鹿児島県の観光についての番組を制作してもらいやすくなる。

④将来、鹿児島県の観光業に携わる人材を育成することにつながる。鹿児島県で母国からの観光客を受け入れたり、母国に帰国後も、魅力ある旅行プランを作成したりと、地元で貢献する外国人の人材を地元で育成することができる。

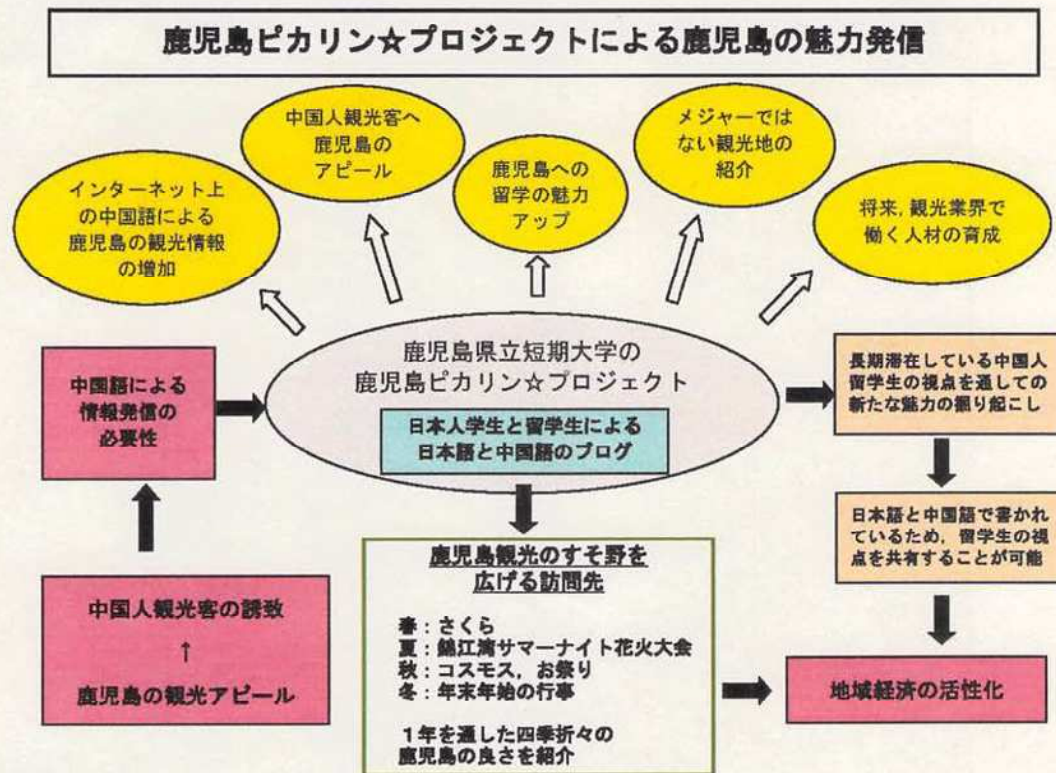
⑤日中の国際交流が促進される。まだ観光地化されていない場所を実際に訪れることにより、ありのままの日本を理解することができる。

⑥日本人学生の地元理解が深まる。本学学生の大半が地元高校の出身であるがゆえに、地元の良さを看過していることが多い。留学生の視点を通じて、地元の魅力を再発見することができる。

⑦大学の地域貢献活動。

⑧新しい観光情報発信モデルを他地域に対して提供することができる。

⑨留学生の増加、観光客の増加によって、地域経済の振興につながることを期待される。など、多くの効果が期待される。



出所) 筆者作成

図1 「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の概要図

1 アイランドキャンパスへの参加者とスケジュール

(1) 参加者

中国人留学生（南京農業大学からの交換留学生）：李東霞（り・とうか）、孫氷（そん・ひょう）、薛超月（せつ・ちょうげつ）

日本人学生：篠田千夏（文学科日本語日本文学専攻1年）、富永野々花（文学科日本語日本文学専攻1年）

教員：福田忠弘（商経学科）

(2) 期間

2012年12月8日（土）～10日（月）

(3) 訪問地および地元へのプレゼンテーション

12月8日（土）

鹿児島空港発（08：20）→JAC3801→（09：35）沖永良部空港着

訪問地：和泊町の「書齋西村（元県立短期大学教員、西村富明氏が運営する図書館）」、フーチャー（隆起サンゴ礁の洞窟）、笠石海浜公園、フローラルホテル知名、昇竜洞、大山植物公園（大山展望台）、ワンジョビーチ、三線体験

12月9日（日）

訪問地：和泊港、西郷隆盛謫居地、和泊小学校（日本一のガジュマル）、ウジジ浜、田皆岬、世之主の墓（琉球式墓）、伊延港（西郷隆盛上陸の地）、西郷隆盛が歩いた道

12月10日（月）

訪問地：知名町役場にて知名町役場産業政策課、企画振興課、沖永良部観光連盟兼知名町観光協会会長への「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の活動および観光についてのプレゼンテーションを行なった。

和泊町役場にて和泊町役場企画課、和泊町観光協会、網膜色素変性症を支援する会への「鹿児島ピカリン☆プロジェクト」の活動および観光についてのプレゼンテーションを行なった。

沖永良部空港発（13：20）→JAC3804→（14：40）鹿児島空港着

(4) 本報告書の執筆者

福田忠弘

2 鹿児島県の観光産業と環黄海经济圈および華南经济圈

今後、日本では本格的な少子高齢化社会を迎えるなかで、全国的に観光産業が注目されている。観光産業は今後成長が見込まれる分野であり、また地域への波及効果のすそ野が広い産業であり、多くの県で観光客誘致が行なわれている。

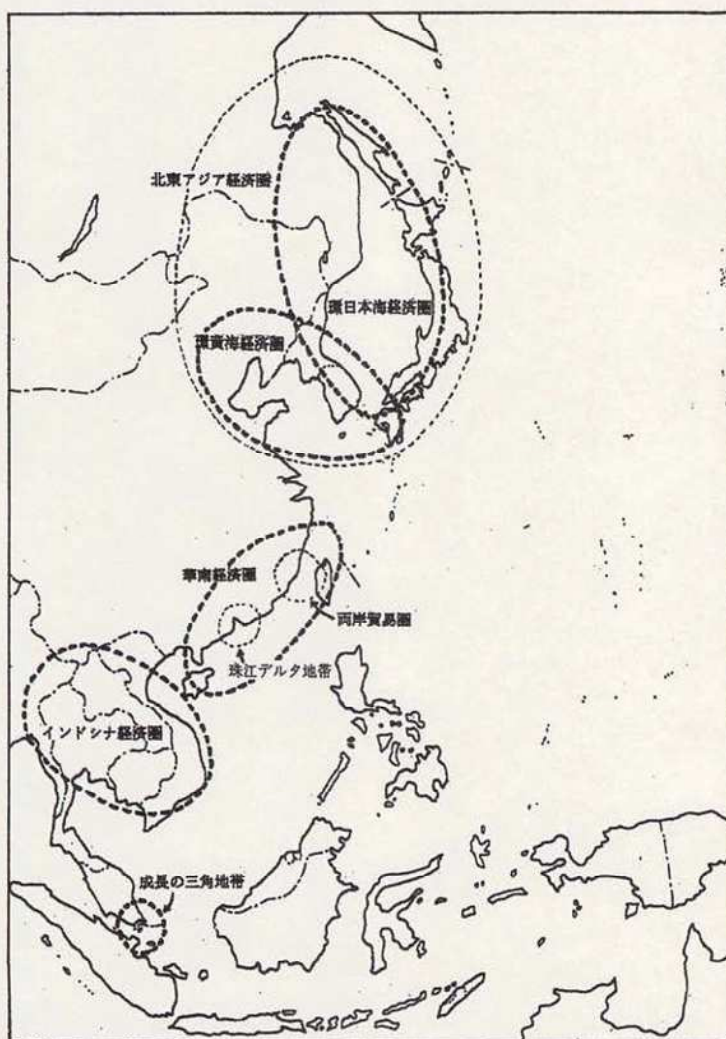


図2 西太平洋地域における局地经济圈

出所) 経済企画庁『年次世界経済白書：平成3年：本編』第4章 市場経済の拡大と再編、第1節 西太平洋地域の分業の新たな展開、3 厚みを増す西太平洋地域の経済関係より。

<http://www5.cao.go.jp/keizai3/sekaikeizai/wp/wp-we91-1/wp-we91bun-4-1-11z.html> [2012年12月18日閲覧]。

2010年6月18日に閣議決定された「新成長戦略—「元氣な日本」復活のシナリオ」では、「観光立国の推進」が目指され、2020年初めまでに日本を訪問する外国人を2,500万人に、そして将

来的には 3,000 万人の達成に向けた取組を行うことが明示されている。同戦略では、とりわけ中国からの観光客誘致に力を入れるために、次のように言及されている。「急速に経済成長するアジア、特に中国は、観光需要の拡大の可能性に満ちている。例えば、中国から日本を訪問している旅行者数は年間約 100 万人、中国から日本への旅行者数は年間 340 万人（いずれも 2008 年ベース）と大きな開きがある。人口増加や経済成長のスピードを考えれば、中国を含めたアジアからの観光客をどう取り込むかが大きな課題である³」と。

図 2 は、経済企画庁が作成した西太平洋地域における局地経済圏を示したもののだが、鹿児島はその地理的な位置から環黄海経済圏のエネルギーをいかに取り込むかが今後の重要な課題となってくるであろう。観光に関して言えば、韓国のソウル、釜山、中国の北京、上海などの都市からの観光客誘致が焦点になるであろう。

国際定期路線の就航状況を見てみると、鹿児島は他の九州各県に比べて有利な状況にある。図 3 は、九州各県の国際航空路線図を示したものである。福岡空港は別格とするとして、鹿児島は環黄海経済圏のソウル、上海、そして華南経済圏の台北の 3 つの国際定期便が飛んでいる唯一の都市であることが分かる。台北との国際定期便は 2012 年 3 月に開通したばかりだが、同年 11 月の利用率が 71% に達するなど好調を維持している。2012 年の鹿児島空港発着の 3 つの国際定期路線の利用者が、11 月現在で約 8 万 7 千人となり、利用者数は過去最多となっている⁴。国際定期路線をもたない佐賀、1 便しかない大分（ソウルのみ）、熊本（ソウルのみ）、そして 2 便しかない長崎（ソウル、上海）、宮崎（ソウル、台北）とも比べて、環黄海経済圏および華南経済圏の 3 つの都市との定期路線を有する鹿児島の優位性は明らかである。南九州の空の玄関口として、鹿児島空港は有利な位置にある。この優位性をいかに観光客誘致につなげていくかが課題であろう。

³ 国の「新成長戦略－『元気な日本』復活のシナリオ」（2010 年 6 月 18 日閣議決定）23 頁。この「新成長戦略」については、<http://www.kantei.go.jp/jp/sinseichousenryaku/sinseichou01.pdf>（2011 年 1 月 10 日閲覧）を参照のこと。

⁴ 『南日本新聞』、2012 年 12 月 11 日、7 面。

九州の国際航空路線図 (2012年10月現在)

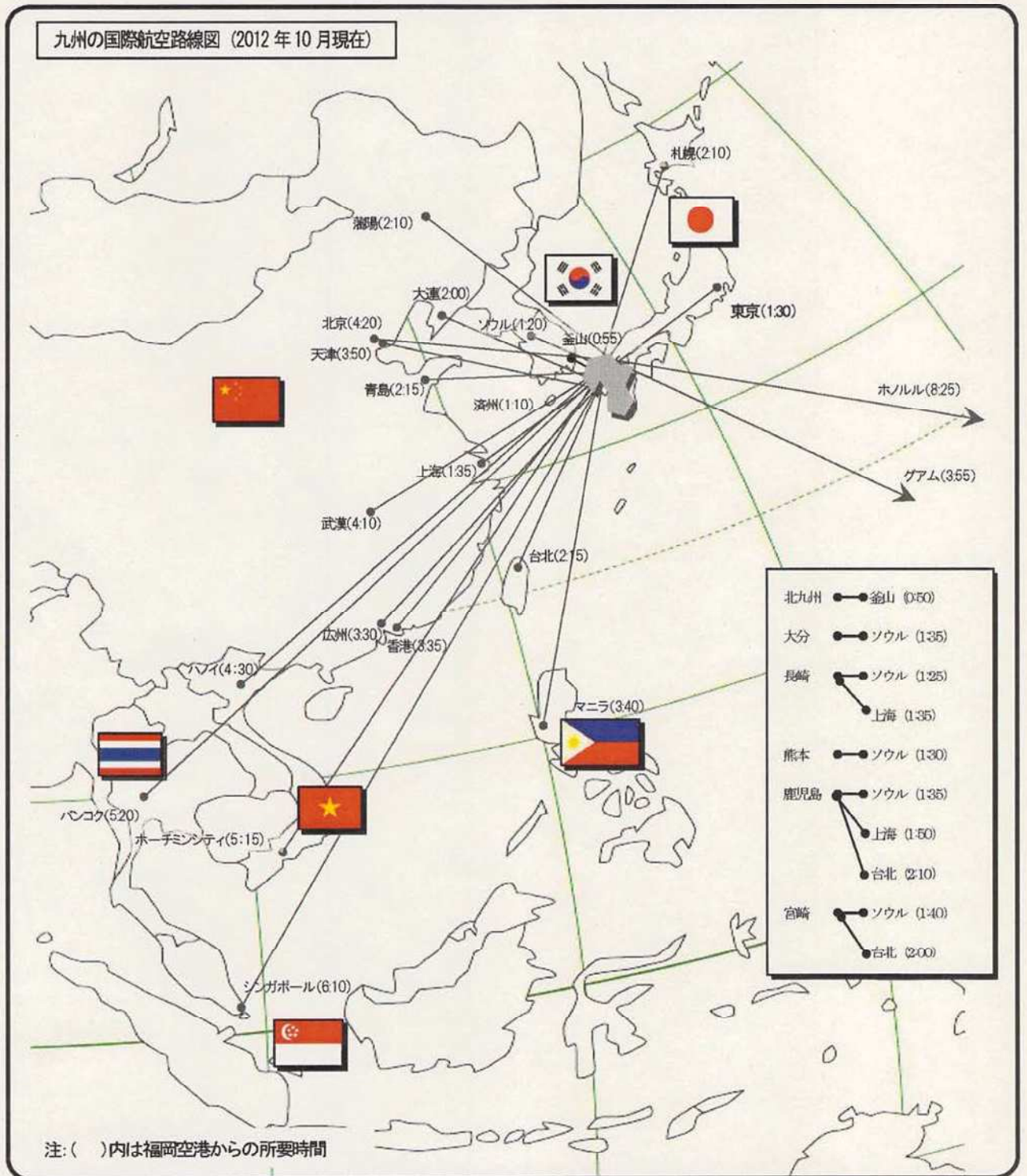


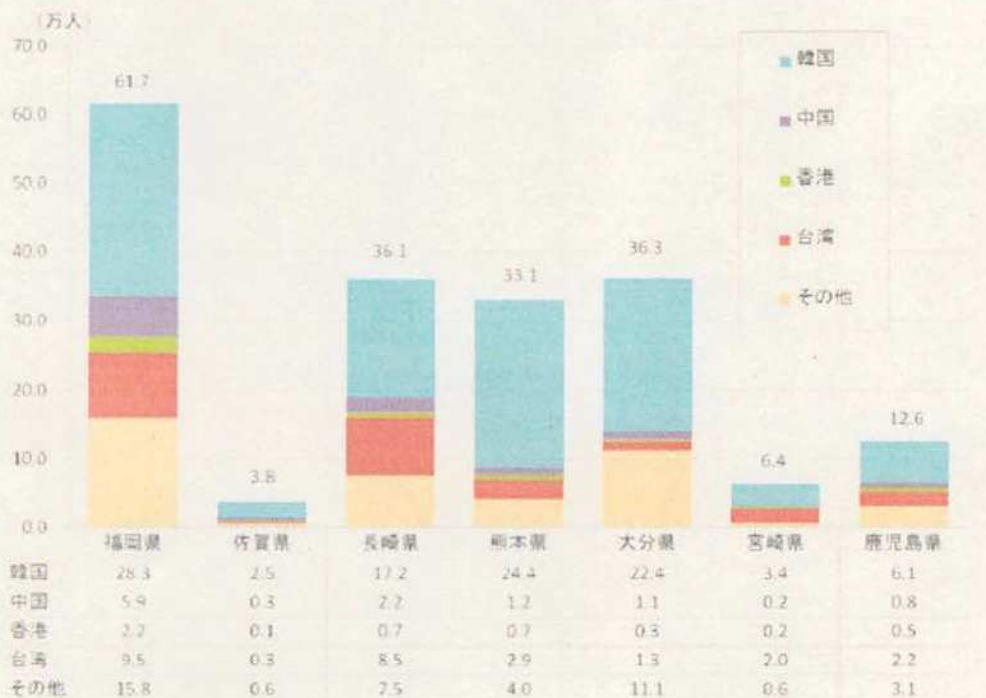
図3 九州各県の国際定期路線

出所) 九州経済産業局『九州経済の現状』2012年秋、1頁より。

http://www.kyushu.meti.go.jp/keiki/chosa/genjyo/genjyo_2012_aki.pdf [2012年12月19日閲覧]。

表1は、台北との国際定期路線が就航する以前の、平成22年1月から12月までの外国人観光客の宿泊数をまとめたものである⁵。この表によると、鹿児島への外国人観光客は最下位の佐賀（国際定期路線ゼロ）、宮崎（国際定期路線2便）について下から3位であることが分かる。九州でトップの福岡とは約5倍、長崎、大分とは約3倍もの差があることは注目すべき事実である。

表1 九州各県への外国人観光客の宿泊数



出所) 国土交通省「宿泊旅行統計調査(平成22年1月~12月)」を元に筆者作成。

ここでの問題は、どうして表1のような結果（最下位から3位）が出てしまうのか、ということである。最近、興味深い調査結果が明らかになった。表2と表3は日本政策投資銀行がアジア8地域（韓国、北京、上海、台湾、香港、タイ、マレーシア、インドネシア）を対象に行なった意識調査のうち、環黄海経済圏と華南経済圏に属する国と地域（韓国、北京、上海、台湾）に関するデータを加工したものである。

表2は、九州の観光地に対する認知度を表したものである。北京、上海、台湾、香港では、九州の観光地のうち鹿児島認知度が高いことが分かる。上海では、一度日本に訪問したことがある人々の間で良く知られている。そして、台湾、香港では、これまでに日本を観光したことのない人たちにも、そしてすでに日本への旅行経験がある人にも、鹿児島認知度が高いことが見て取れる。

⁵ 平成24年は、台北線の就航、韓国および中国との領土問題によって、海外からの旅行者には急激な変化が現れている。『南日本新聞』、2012年12月11日、7面によると、台北線の11月の利用率は71%、ソウル線は約70%、上海線は9月まで約50%だったが、11月には29%に落ち込んでいる。

表2 九州の観光地の主な認知度

	韓国			北京			上海			台湾			香港		
	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
訪日経験															
サンプル数	231	119	150	235	134	131	194	152	154	173	125	202	160	101	239
福岡／博多	48%	53%	64%	35%	46%	49%	38%	42%	51%	54%	50%	61%	36%	36%	64%
長崎	41%	34%	47%	41%	54%	47%	42%	59%	50%	62%	58%	67%	48%	39%	61%
別府／湯布院	29%	36%	47%	6%	10%	17%	5%	9%	21%	9%	13%	27%	21%	14%	43%
阿蘇	5%	10%	25%	3%	10%	15%	4%	11%	16%	3%	7%	25%	4%	11%	38%
宮崎	22%	20%	33%	37%	45%	49%	29%	41%	47%	45%	38%	46%	40%	29%	55%
鹿児島	23%	29%	32%	35%	46%	47%	38%	62%	50%	62%	58%	71%	56%	49%	71%

注) 鹿児島に関して九州で1位の項目は赤で、2～3位 (同位も含む) 以内に入っている項目に関しては、黄色で塗りつぶしてある。回答は複数回答。
 出所) 株式会社日本政策投資銀行「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査」中の12「(全員)日本の観光地の認知度「これらの観光地をご存知ですか?」
 (http://www.dbj.jp/pdf/investigate/etc/pdf/book1212_01.pdf [2012年12月18日閲覧]) のデータを用いて筆者作成。

表3 九州の観光地で実際に訪問してみたい場所

訪日経験	韓国			北京			上海			台湾			香港		
	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上	なし	1回	2回以上
サンプル数	202	116	149	10	134	131	184	152	154	167	28	201	153	101	239
福岡／博多	14%	14%	19%	8%	10%	18%	5%	8%	16%	11%	15%	27%	5%	6%	15%
長崎	9%	6%	14%	13%	10%	15%	8%	20%	19%	12%	18%	22%	5%	9%	12%
別府／湯布院	14%	12%	20%	2%	2%	6%	2%	5%	12%	3%	3%	10%	3%	2%	8%
阿蘇	1%	0%	8%	0%	3%	3%	2%	3%	6%	1%	2%	11%	1%	2%	7%
宮崎	5%	3%	9%	7%	11%	16%	3%	13%	18%	6%	14%	15%	7%	6%	13%
鹿児島	2%	5%	7%	13%	14%	19%	12%	21%	20%	20%	26%	31%	19%	16%	28%

注) 鹿児島に関して九州で1位の項目は赤で、2～3位以内に入っている項目に関しては、黄色で塗りつぶしてある。回答は複数回答。

出所) 株式会社日本政策投資銀行「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査」中の13「(全員) 実際に行ってみたい日本の観光地「知っている観光地の中でどこへ行きたいですか?」(http://www.dbj.jp/pdf/investigate/etc/pdf/book1212_01.pdf [2012年12月18日閲覧]) のデータを用いて筆者作成。

表3は、九州の観光地で実際に訪問してみたい場所について質問した結果である。この表をみると、韓国以外の北京、上海、台湾、香港では、他の九州各県に比べて鹿児島を「実際に訪問したい場所」としてあげていることが見て取れるのである。したがって、韓国での鹿児島の知名度を上げていくと同時に、北京、上海、台湾、香港から実際に観光客に足を運んでもらえる工夫をすることが重要なポイントとなってくる。

表1では、九州各県のうち最下位から3番目の結果になっているが、表2、3から分かるように、鹿児島は決して知名度が低い観光地ではないのである。

こうしたアンケート資料や、国際定期路線が他県よりも多いことから、鹿児島への観光客誘致はまだまだ可能性を秘めているということが言える。

3 鹿児島県の離島の可能性

すでに言及した表2や表3で、鹿児島県の認知度が高く、実際に訪れてみたいと思っている人が多くいるということが明らかになった。しかしこれらの資料からは、鹿児島県のどこに魅力を感じているのかについてはまでは分からない。

表4 行ってみたい日本の観光地のイメージ

	韓国	北京	上海	台湾	香港
温泉	75%(83%)	55%(67%)	63%(69%)	74%(75%)	69%(74%)
桜	33%(43%)	59%(70%)	60%(64%)	64%(65%)	68%(73%)
日本的な街並み	61%(72%)	49%(60%)	47%(55%)	75%(78%)	67%(73%)
和風旅館	59%(69%)	43%(53%)	43%(53%)	65%(69%)	64%(70%)
新幹線	37%(48%)	39%(48%)	43%(48%)	58%(63%)	51%(58%)
城	52%(60%)	33%(47%)	35%(42%)	59%(65%)	57%(61%)
テーマパーク	35%(45%)	42%(56%)	48%(55%)	54%(61%)	62%(66%)
寺社仏閣	41%(52%)	36%(51%)	34%(42%)	69%(72%)	49%(54%)
紅葉	18%(27%)	28%(38%)	34%(43%)	51%(55%)	63%(68%)
日本庭園	45%(59%)	38%(54%)	38%(45%)	49%(53%)	37%(40%)
ショッピングモール	32%(43%)	42%(53%)	46%(50%)	47%(50%)	55%(58%)
百貨店(デパ地下)	23%(29%)	31%(40%)	37%(45%)	51%(53%)	54%(59%)
田園風景	17%(20%)	36%(43%)	33%(41%)	30%(32%)	35%(40%)
山岳	15%(16%)	29%(37%)	27%(31%)	28%(28%)	26%(30%)
都市景観(高層ビル街)	17%(25%)	31%(45%)	28%(36%)	38%(42%)	23%(27%)
高級ホテル	17%(23%)	19%(29%)	20%(24%)	34%(38%)	29%(29%)
海(海岸)	26%(34%)	40%(51%)	41%(49%)	32%(32%)	32%(37%)
海(リゾート)	23%(27%)	36%(44%)	40%(49%)	18%(18%)	27%(30%)

注) 複数回答。国・地域ごとのカッコ内の数値は、日本旅行希望者のみを対象とした割合。

出所) 株式会社日本政策投資銀行「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査」中の11「〈全員〉行ってみたい日本の観光地イメージ(その1およびその2)」

(http://www.dbj.jp/pdf/investigate/etc/pdf/book1212_01.pdf [2012年12月18日閲覧])を用いて、筆者作成。

表4も、日本政策投資銀行が行なったアジア8地域における調査の、「行ってみたい日本の観光地のイメージ」についてのデータをもとに作成したものである。訪問地のイメージとしては、「温泉」、

「和風旅館」、「日本庭園」、「ショッピングモール」などが高い数値を示していることが見て取れる。中国人留学生から話を聞くと、NHK 大河ドラマ「篤姫」のイメージが大きく影響しているという。そしておそらく、桜島などの独特な景観、そして指宿や霧島の温泉についての認知度が、北京や上海、台湾、香港の人々の間で良く知られているのではないかと想定できる。

これまでに言及してきたとおり、鹿児島は認知度が高く、実際に行ってみたいと思っている人がいるにも関わらず、外国人観光客の宿泊数が九州では最下位から3番目という位置にいるという現状を考慮すると、「温泉」、「和風旅館」、「日本庭園」、「ショッピングモール」以外の鹿児島ならではの魅力をアピールして、鹿児島観光の選択肢の幅を広げることが重要だと思われる。

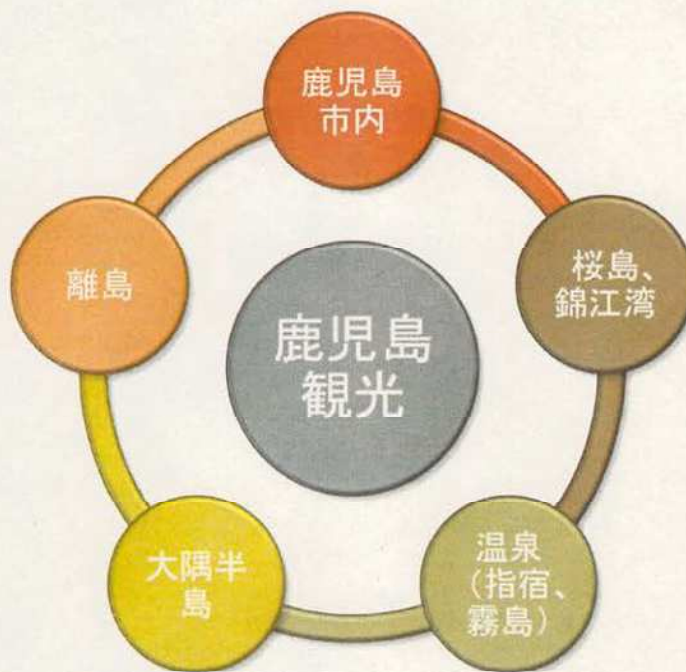


図4 鹿児島観光のすそ野を広げる

表4で注目したいのは、「海（海岸）」、「海（リゾート）」の数値が意外に高いことである。特に北京、上海では「海（海岸）」が40%を越えている。こうした「海（海岸）」へ行きたいというニーズに応えるのに、鹿児島県の離島はぴったりである。桜島や温泉（指宿、霧島）以外のプラスαの魅力として、離島を追加することにより、観光客誘致の選択肢を増やすことが可能であると考えている。

さらに離島の魅力は、海外の観光客だけでなく、日本人の観光客へも大きな魅力となってくると考えられる。離島において、いきなり外国人観光客を受け入れるのは非現実的で、まずは、日本人観光客へ離島の魅力をアピールすることからはじめることが、現実的な一歩となると思われる。

離島の魅力をアピールする際に、これまで培われてきた鹿児島のイメージを壊すことなく、さら

にこれまで見過ごされていた魅力を追加的にアピールできるようなキャッチコピーが有効であろう。資料2は、そのようなキャッチコピーの日本語のアイデアである。資料3は、中国語によるものである。日本語でも中国語でも、「鹿児島、鹿儿岛」の中に「島」の漢字が存在するので、離島をアピールすると同時に鹿児島のアピールができる点が興味深い。

- ・ 鹿児島へ行こう
- ・ 行こう鹿児島「島」へ
- ・ 鹿児島「島」には「島」がある
- ・ 桜島だけではない鹿児島「島」の魅力
- ・ 鹿児島「島」キャンペーン
- ・ 鹿児島「島」キャンペーン
- ・ そのさきの鹿児島「島」へ
- ・ 「島」った、鹿児島「島」には、「島」があったのか！：あなたが逃した島三昧
- ・ 鹿児島「島」の魅力
- ・ Let's go 鹿児島「島」
- ・ Let's go 鹿児島「島」
- ・ ドリームアイランドin 鹿児島
- ・ Dream Islands in 鹿児島
- ・ We Love 鹿児島～島・しま・シマ～
- ・ 島は宝

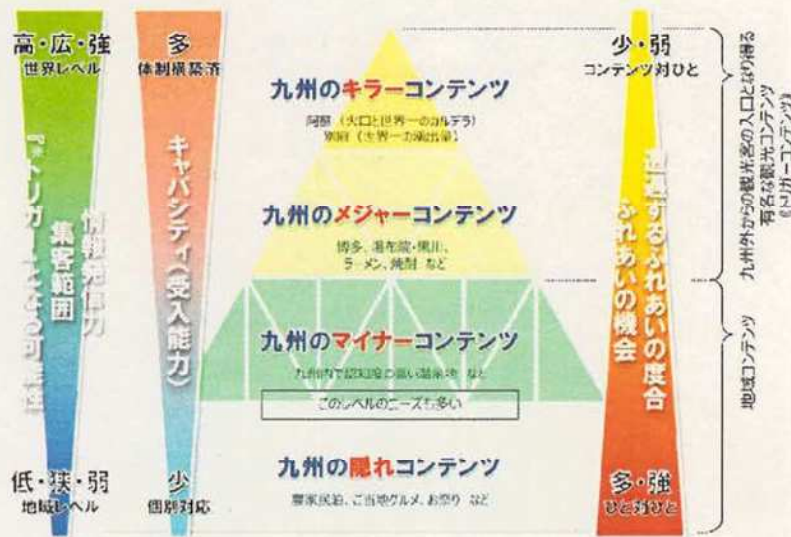
資料2 離島をアピールするキャッチコピー（日本語）の例

- ・ 鹿儿岛，人人点头称“岛” [鹿児島、人々が絶賛するわが島]
- ・ 鹿儿岛，千岛之国 [島の国、鹿児島]
- ・ 鹿儿到（岛），人也到，大家都到鹿儿岛 [鹿が来る、人も来る、みんなが来る鹿児島]

資料3 離島をアピールするキャッチコピー（中国語）の例

4 沖永良部島の魅力

今回、実際に「平成 24 年度アイランドキャンパス」で、中国人留学生 3 名と日本人学生 2 名、そして教員 1 名で沖永良部島の観光の魅力を体験してきた。なぜ沖永良部島を訪問先に選択したかという、同島はこれまで「観光よりも農業の島」というイメージが強固にありながらも、後述するように同島独特の観光資源が多く存在しているからである。そうした同島の観光を考えることは、奄美群島、鹿児島島の離島、そして鹿児島島の観光のすそ野を広げることにつながると考えている。



出所 経済産業省九州経済産業局委託（環境テクノス株式会社受託）『平成 22 年度観光関連産業育成事業（観光関連産業における経営力強化事業）報告書』（2011 年 3 月）、28 頁。

http://www.kyushu.meti.go.jp/report/1108_service_kanko/110803_service_kanko.pdf（2012 年 1 月 27 日閲覧）

図 5 観光のすそ野を広げる

図 5 は九州の経済産業省九州経済産業局（環境テクノス株式会社受託）が出した『平成 22 年度観光関連産業育成事業（観光関連産業における経営力強化事業）報告書』である。この図では、情報発信力が高く、集客範囲が広く、さらに受入能力も高い観光地を「キラークンテンツ」として、その逆を「隠れコンテンツ」と呼んでいる。そして「隠れコンテンツ」を増やすことが、観光のすそ野を広げることになると指摘している。

今回、沖永良部島の観光資源を取り上げるのは、鹿児島における「隠れコンテンツ」を取り上げることでもあり、それは鹿児島観光のすそ野を広げることになる。さらに沖永良部島だけでなく、奄美群島、それ以外の離島をアピールすることはトータルとしての鹿児島島の魅力をアップさせることになるはずである。

中国人留学生が沖永良部島で何を感じてきたかについては、次節の「5 次節の中国人留学生から見た沖永良部島の魅力」でブログを添付するが、まとめると以下の諸点になる。

(1) 海が魅力

中国は内陸部がほとんどなので、中国人留学生にとって海は特に人気の高い場所である。マリンスポーツを楽しむというよりも、砂浜で長時間過ごすことが多い。さらに沖永良部島のようにサンゴ礁のマリンブルーの海があるだけで、その価値は格段に向上する。今回、沖永良部島を訪問したのは12月にも関わらず、ワンジョビーチ、笠石海浜公園などは留学生に人気のスポットだった。

マリンスポーツがなくても、きれいな海、きれいな海岸だけでも十分魅力的である。様々な選択肢が多くあるよりも、逆に選択肢が少ない方がのんびりできるという評価もあった。

(2) 夕日と朝日

世界地図を一見して明らかなおとおり、中国の西には海がない。したがって海に沈む夕日を実際に見ると言う経験はほとんどない。鹿児島本土でも吹上浜などは留学生にとって人気のスポットである。沖永良部島はその面積が小さいために、東の海岸から西の海岸まで短時間で移動することが可能である。朝、東の海岸で朝日を見て、夕方、西の海岸で夕日が沈むのを見るということだけでもかなりのインパクトがある。

面積の小ささは決してマイナスではなく、プラスの要因にもなりうる。

(3) 雰囲気

中国の人口は13億人を超え、中国の都市はどこも人が多い。今回、沖永良部島を訪問して、車の少なさ、のんびりした雰囲気も中国人留学生には人気で、この雰囲気だけでリラックスできるとの感想が述べられた。

人口が少ないこと、農業（それも花卉栽培）が盛んなことはプラスの要因である。

(4) 独特の景観

沖永良部島には「昇竜洞」と呼ばれる鍾乳洞や、「フーチャー」と呼ばれる隆起サンゴ礁の洞窟、ウジジ浜、日本一のガジュマルの木などの独特の景観も魅力ある観光資源である。さらに「花の島」としても知られる。

「オンリーワン」のものが多く、中国人留学生からは、「フーチャー」や「昇竜洞」の動画などがあるとよりその魅力が伝わるとの提案があった。

(5) 歴史と文化

沖永良部島は西郷隆盛が遠島され、「敬天愛人」の思想に目覚めたところでもある。さらに沖縄の文化が入っていて、沖縄の三線やエイサーなども見ることも可能である。こうした歴史と文化も利点である。